

ポイント

海外音楽見本市に初出展し、二画面折りたたみ式 A4 サイズ Android タブレット「SONO」を海外へ

- 他社が作っていない二画面タブレットで電子楽譜を手軽に持ち運べるようにすることを目指した
- 作曲家のマネジメントや原盤制作だけでなく、音楽家の視点を取り入れ新しい電子楽譜タブレットを開発
- 初めて出展した海外見本市、MIDEM にて、本業の楽曲提供での成約獲得と、新規事業である電子楽譜タブレットの幅広いPRの成功

企業基本情報

所在地	東京都国分寺市東恋ヶ窪 2-11-13-1F
電話/FAX	042-349-6330/042-349-6331
URL	http://nomos-japan.co.jp/
代表者	代表取締役 (CEO) 渋谷 ゆう子
設立	2011年
資本金	410万円
従業員数	1人



会社概要

クラシック音楽作曲家である渋谷牧人のマネジメント、独自レーベルの運営として2011年に同社を設立。同年 NOMIUS NOMOS レーベルの立ち上げを行う。クラシック音楽の演奏家との繋がりから、電子楽譜を楽譜表示に適したデバイスで見たいという願いを聞き、電子楽譜表示端末の開発に着手する。この事業において、2013年度海外需要獲得型起業・創業補助金に採択される。電子楽譜表示に特化した独自アプリケーションを搭載した、A4 二画面二つ折り Android 端末 SONO を2016年10月にクラウドファンディングにて発表した。



製品写真

革新的な製品開発や創造的なサービスの提供に関する取組の内容

▶▶▶ 他社が製造していない二画面タブレットで、電子楽譜を手軽に持ち運び可能に

同社は、他のメーカーも製造していない二画面タブレットを採用し、かつそれぞれの画面で独立した操作を可能とすることで、左右の画面において別々のアプリケーションを起動することができるようになる、新しい練習方法や演奏時の使用方法を生み出した。



「SONO」を使用した練習風景

▶▶▶ 音楽家の視点を取り入れて作られる、新しい電子楽譜のカタチを実現

これまで、パソコンや iPad などのモバイル端末で楽譜を映し出して見ることはできたが、実際の演奏時には、その大きさや形状が適していなかったため、使用するには難しいと音楽家からの不満の声が多く上がっていた。

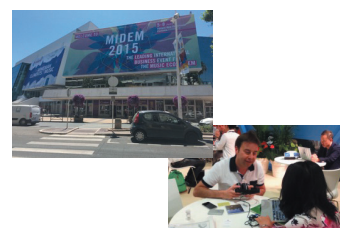
そこで同社は、自らも作曲家のマネジメントを手がける中、音楽制作のみならず従来の紙媒体の楽譜形態から、電子楽譜という新しい市場へ参入。音楽家目線で電子楽譜タブレット制作を行うという点で他社と差別化して新たな付加価値を生み出している。



演奏時にも使用できる大きさ

▶▶▶ 初めて出展した海外見本市「MIDEM」にて広く PR

手軽に持ち運びができる同社の電子楽譜表示端末は、ネットワークに繋いで海外とも連絡を取ることができるという利点を持っていた。加えて、楽譜の送受信も可能であったことから、初の海外見本市にもかかわらず、多くの海外企業の注目を集めることとなった。また、楽曲原盤においても、音楽ライセンスの成約に至る成果を上げることができた。



海外見本市に出展